

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」のキーワードのもと、社会で通用する基礎学力を確立し、生きる力を高めようとする姿勢を育む。
1 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
2 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者が安心とを感じる学校になる。
3 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
4 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
5 個々の教育的ニーズに応じた支援を実現していき、すべての生徒が他者理解、思いやり、そして自己を大切にする気持ちを持ち、自らの夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

1 社会で通用する基礎学力の獲得をめざす （１）積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。 （２）授業形態の工夫、アクティブラーニングの視点からの授業の構築、ＩＣＴ機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的な学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。 （３）大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようガイダンスを充実させるとともに、多様な進路希望を実現できる取組みを確立する。 （４）生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。
2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。 （１）平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 （２）他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。 （３）職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。 （４）生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。 （５）部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。 （６）保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。
3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。 （１）異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。 （２）出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。 （３）生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。 （４）ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。 （５）図書室の活性化 （６）教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成３０年１月実施分〕	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ○「授業はわかりやすくなる」肯定 ４年間で 55.8→58.9→63.0→70.0 『脳力開花』のポスター作成、授業のキーワード「解る」「創る」「伝える」を掲げて授業改善を啓発 授業研究チームによる主体的な学びを推進 新学習指導要領の解説を行い、その意義を説明し、個々の教員が授業改善を進めた。 １年生ではベネッセの基礎学力診断でＢゾーン増加、Ｄ３ゾーン減少 基礎学力向上 ２極化の部分もある。成績による留年は減少する見込み。 「教科の話し合い」において肯定 57.1→58.3→55.9 となっており、啓発は組織として進めたが、実務的にはまだまだ試行錯誤を繰り返し、個々のチャレンジの段階であると思われる。 しかし、確実に授業の改善は進んでいる。	第１回（７／１３） １ 平成２９年度 教科用図書について説明 閲覧 ２ 学校経営計画の重点 目指す学校像―生徒が安心できる学校 中期的目標―基礎学力の充実 進路 他者理解 今年度の目標―基礎学力の確立 ・国語の少人数展開 ・年２回の業者テストの実施 ・「脳力開花」の推進 ・安心アンケートの実施 ・メールマガジンの充実 ・地域との連携 ３ 協議 ・生徒の個々の事情も複雑なので、より添いの姿勢が必要 ・保護者の安心は、情報公開が重要 ・具体的な取組み 生徒との懇談を充実。 ・授業改革においては、目的を明確にして。 ・経営計画、教育計画等を図式化してわかりやすく。
【生徒指導等】 ○「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定的生徒 48.3→51.3→50.0 保護者 65.9→71.6→66.3 とダウン。保護者に対しても寄り添いを強化する必要がある。 ○「進路指導を適切に行っている」肯定 74.2→74.3→78.6 アップ 課題がある生徒への指導を早い段階で開始。公務員、進学指導を個別で行う等、各進路先に応じた対応を充実させた結果だと考えられる。 ○「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」肯定 69.5→71.8→73.1 と伸びている。人権についてのプログラムは効果を出している。	第２回（１２／１４） １ 報告「学校の現状について」・守口東安心アンケートの結果について（次年度ＳＳＷの導入を考えている。） ・学力向上について ・授業改善について（授業研究チームによる活動の継続） ・地域連携について（高大連携充実、保育実習充実、人権講演会における中高連携など） ・文化祭の活性化（舞台発表の増加・充実） ・３０年度の志願状況と広報活動について（２クラス減による教員定数の減少） ２ 協議 ☆守口東安心アンケートについて ・担任との懇談や相談のきっかけ作りが目的。 ・１年生での不安の原因は大半が進級や進路への不安である。・家庭の問題の解決に限界があり、ＳＳＷの導入を検討している。 ☆学力の向上について ・学力診断テストによると３５期生の学力に伸びが見られる一方で、両極化の傾向。 ・学習活動の継続を促すことを重要視すること。 ・学力向上のためには国・数・英の少人数展開授業は有効。 ・各教科において「つけたい力」を明確にすること。学習活動の理想形を生徒に発信することも重要。
【学校運営】 ○教員「校長の運営方針」は肯定 75.0→86.1→71.5 は低下している。教員「分掌学年の連携、組織的な運営」62.1→67.6→62.5 とここでもダウンしている。分掌の統合を行い、効率的な運営により効率的に行う。「チーム学校」を進めたい。	第３回（２／２３） １ 今年度の進路状況について ２ 学校経営計画について 平成２９年度 学校評価について 平成３０年度 学校経営計画について ３ 意見交換 相談体制について ・生徒の不安を聞くだけでも十分な効果がある。気軽に話ができる雰囲気醸成を。 ・ＳＳＷの導入は教員の負担の軽減に資するが、学校の役割の限界を自覚すべきである。 スマートフォンについて（生活指導） ・管理の方法や使う時間帯の設定はどうか。会社で勤務時間中に禁止したこともあるが、うまくいかない。学校でも工夫が必要だ。 ・ツールとして多様性があり単なる通信機器ではない。・教員が禁止したい気持ちはわかるが、教員側の都合のように見られる。授業での活用やマナー教育を推進することを考えるほうがよい。 ・中学校では禁止しているが守口市ではＷｉＦｉやタブレットが整備されて授業で活用している。 ４ 平成３０年度への提言 ・新学習指導要領は、子どもたちに、不透明な時代を人々が協力して生き抜く力を持ち、幅広い思考力や判断力、表現力を求めている。我々は生徒が将来幸せな人になってほしいとまず考える。社会がどのような人材を求めているかという観点から基礎学力とは何かを考えたい。 ・大学においても、人間関係を築き、協力して問題を解決する体験を通じて人間育成を図る授業を行っている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会で 通用する 基礎学力 の確立	(1)積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。まずは主要3教科での強化を図る。 (2)授業形態の工夫、アクティブラーニングの視点からの授業の構築、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的な学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。 (3)大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。 (4)生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。	(1) ア・1年生6クラス7クラス展開を中止し、基礎学力定着に注力する。 ・1年数学：習熟度別2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開の少人数 ・1年国語(国語総合)：1クラス2展開の少人数 イ・教育産業の実力テストを実施 (2) ア・年2回の生徒による授業アンケートの実施。 イ・授業見学を年間通じて実施。 ウ・退学者数、転学者数の減少 エ・生徒の主体的な学びについての研修 オ・普通教室にプロジェクターを設置し設備を整えAL的な視点からの授業を研究し、実施授業を多く展開する。 (3) ア・元キャリアCoを校長マネジメントで招聘し、専門的なアドバイスを受ける。 イ・オープンキャンパス参加を増加、意欲を高める。 (4) ア・カリキュラムの変更	(1) ア・少人数アンケート結果： 数学 肯定83% →85% 英会話 肯定56% →65% 国語総合(新) 肯定 →65% イ・教育産業の実力テスト結果向上 1年2回のテストで2回目に成績下位層を減少 (Dゾーン減少) (2) ア・学校教育自己診断(H27わかりやすい 肯定63%→70%) イ・校長1、2学期に1回ずつ実施 「授業研究チーム」による研究授業を年間3回 ウ・中退者数の減少8名→3名 エ・研修を2回 オ・教員の5割が実施、カ・課題提出BOX設置 (3) ア・年間20回 イ・進学希望者オープンキャンパス参加率 2年生で90% (4) ア・カリキュラムの変更	(1)少人数アンケート結果： ア 数学 肯定83% →81.7% 英会話 肯定56% →76.3% 国語総合(新) 肯定 →92.7% (○) イ 基礎力診断テスト(人数)ABゾーン16→21 Cゾーン→D1～D2 ゾーン126→92 D3ゾーン8→21 全体でアップしている。(◎) (2) ア. イ. エ. オ. カ「授業がわかりやすい」肯定 全体58.9→63.0→70.0 (1年59.4→59.1→65.8②56.8→64.6→75.5③60.7→65.2→65.0)とアップ 授業改善が進んでいる。1年生の国数英での少人数展開も有効的であったと考えている。教員の59.4%がグループ学習を実施授業見学期間の授業内容を共有している。研究授業を3回実施した。研修は1回しか行えなえなかったが、業見学週間では「見学ワークシート」により改善ポイントを教員全体で共有 課題提出BOXを設置して環境整備も進めた。授業アンケート平均3.09→3.11 とアップ (◎) ウ 中退者数 8名→4名 (○) 懲戒件数は 7件→2件生徒の落ち着き↑。(◎) (3) ア 20回活用 成果あり 就職内定100% (○) イ オープンキャンパス参加率測定できず (△) (4) ア カリキュラムの変更は行えず (△)
2 多様で 変化が激 しい社会 で生き抜 くことが できる生 徒の育成	(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 (2)他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちらを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。 (3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。 (4)生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。 (5)部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。 (6)保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。	(1) ア・遅刻数、欠席者数を減らす。 イ・モニタで遅刻統計を伝え、啓発を行う。 (2) ア・守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。 (3) ア・1年生からの進路プログラムの充実 イ・国語・数学・英語に主要三教科の基礎学力を充実させる。 (4) ア・お互いを認めて励ましあったり支えあえるように機会を提供する。 イ・行事前と後にモニタで動画(ダイジェスト)発信を活用する。 (5) ア・近隣の中学校を対象に地域大会「守東カップ」を発展させる。 イ・地域との連携による活動 (6) オ・PTA活動を活発化して、保護者の関心を促し、ともに生徒の成長を支援する。 ・寄り添い姿勢を備えた保護者対応。	(1) ア・生徒遅刻回数の減少 大・小遅刻5685回→5000回 ・年間皆勤者数の増加 1年63、2年64、3年67→1年70、2年60、3年70 イ・遅刻啓発のモニタ掲載年間8回 (2) ア・学校教育自己診断 「生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加 H28 73% →80% 守口東高校安心アンケート安心度 H28 1年3.6、3.4 →3.8、3.6 (3) ア・学校教育自己診断 進路について肯定を増加 H28 78.3%→H29 80% イ・教育産業のテスト結果の向上 1.(1)、イと同じ (4) ア・行事後のアンケートによる 学校教育自己診断 70%→75% 体育祭 88% →90% 文化祭 81% →85% 修学旅行 97% →98% イ・上記行事等でモニタ動画発信 3回以上 (5) ア・部活動加入率を伸ばす。 5月(3学年) 45%→55%、 ・表彰数の増加 27団体396名→28団体350 イ・競技種目、参加中学校数増加 サッカー部、女子バレー部以外に実施 (6) ア・守東メールマガジンの送信回数 45回→60回 イ・学校教育自己診断 「ホームページや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 H28 肯定62.2% →75%	(1) (◎) ア 遅刻数 大小遅刻 5685回→4982回 皆勤者数1年63、2年64、3年67→1年90、2年57、3年57 イ モニタでは2回のみ、始業式での啓発で補足 (△) (2) ア 69.5→71.8→73.1 目標には達していないが、伸びた。(△) イ 守口東安心アンケート数値は昨年から上昇した。 3年 3.60→3.89→3.93→4.06 2年 3.60→3.46→3.63→3.63 1年 3.85→3.59 (1年は2学期中間での中だるみを指導した直後にアンケートを実施したため低い値。2年生は変わらない) (△) (3) ア 進路指導 学校全体 74.3→78.6アップ (△) (4) ア行事 学校教育自己診断 70%→75% (△) 体育祭 88% →81% 文化祭 81% →85% 修学旅行 97% →96% イ 上記行事後に配信 (○) (5) ア・部活動加入 アメフト、写真部新設 5月次(3学年) 45%→42.7% ただし、1、2年5月41.5%→50.0% 増加 (△) 3年生の増加はない。1、2年生で増加ができた。 ・表彰数の増加 27団体396名→19団体163 (△) イ・サッカー部、女子バレー部で実施 ・大学の出前授業を1講座→5講座 (○) (6) ア「守口東メールマガジン」 45回→50回 (○) イ学校教育自己診断 保護者 「HPや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 肯定62.2% →64.2% (△)

3 地域連携と校内体制の整備、さらに「行きたい学校」へ	(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。 (2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。 (3)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。 (4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる (5)図書室と大教室(会議室)の活性化 (6)教員の人材育成と労働安全衛生の充実により学校を活性化	(1) ア・地元中学校との連携 ・支援学校との連携 (2) ア・出身中学との緊密な連携による生徒指導の充実 イ・入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。 (3) ア・全教員による相談機能を強化するために研修を実施。 (4) ア・HPのタイムリーな更新 イ・「守口東高校メールマガジン」による情報発信 ウ・校内モニタを活用した生徒活動等の情報発信 (5) ア・図書室と会議室を整備し、授業での活用と生徒同士の話し合いの場を提供 イ・図書室に有線でLANを設定しAL的授業を展開 (6) ア時間外勤務時間を短縮	(1) ア・中学校の教員が本校の授業見学 (2) ア・1年生による母校訪問 訪問者数 56校→ 60校 イ・入学前中学校訪問数 全校 (3) ア・職員研修を2回実施。 (4) ア・ホームページの新着情報 更新回数の増加 20回→50回 イ・「守口東メールマガジン」の発信 発信回数 44回→ 50回 ウ・校内モニタの更新 静止画 年間 50回更新 動画 年間 12回更新 (5) ア・図書室での授業回数 30回 ・会議室としての活用回数 10回 イ・図書室での ICT 活用授業実施 (6) ア・時間外勤務時間一人平均短縮 一人平均 330h→300h	(1) ア 授業見学は実施できず、人権教育での交流を実施 (Δ) 守口市支援学校との交流は実施 (○) (2) ア・1年生による母校訪問 訪問者数 56校→ 60校 (○) イ・入学前中学校訪問数 全校 (○) (3) ア・職員研修を1回実施 (Δ) (4) ア・ホームページの新着情報 更新回数の増加 20回→30回 (Δ) イ・「守口東メールマガジン」の発信 発信回数 44回→ 50回 (○) ウ・校内モニタの更新 静止画 年間 40回更新 動画 年間 12回更新 (Δ) (5) ア・図書室での授業回数4回 ・会議室としての活用回数 5回 イ・図書室としての ICT 活用授業実施 3回 (Δ) (6) ア・時間外勤務時間一人平均短縮 一人平均 330h→329h (Δ)
--------------------------------	--	---	--	--